

個票3 急傾斜地における下層植生の早期回復〔森1(1)④3-2 森2(2)①8-2〕

(2011年作成)

配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
	種の多様性への配慮		野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	豊かな土壌の保全・回復・創出		
	多様な緑地などの保全・創出		
配慮事例	樹林の林床植生の多様化による表土流亡の防止		
	樹林の整備・管理による多様な植生の回復		

内容

●急傾斜地における下層植生の早期回復

【解説】

急傾斜地における手入れ不足のスギ・ヒノキ等人工林では、林床植生が失われ、降雨によって表層土砂が流出しやすくなっていることから、間伐による光環境の改善だけでは、下層植生が早期に回復できない状況となっています。

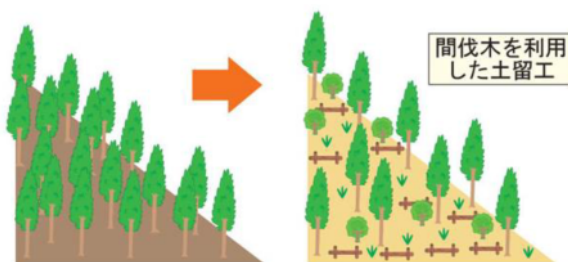
特に、土砂災害の被災地では、表層土砂が失われ植生の導入や森林の早期回復が困難となっています。

このため、表層土砂の安定を図り、植生の早期回復を促すことが大切です。

【具体的な工法・配慮事項】

●間伐木を利用した土留工（どどめこう）の設置

間伐の際に発生する間伐木を利用した土留工を等高線方向に設置し、表土の流出を防止します。



●丸太柵工と植生マットの設置

表土や植生が失われた土砂災害の被災地では、丸太柵工等を階段状に設置し、背面に苗木を植栽することで植生の回復を図ります。また、植生マット（種子を混ぜた植生基盤）や法枠工等により斜面を覆い、表土侵食を防止します。

**【事例】**

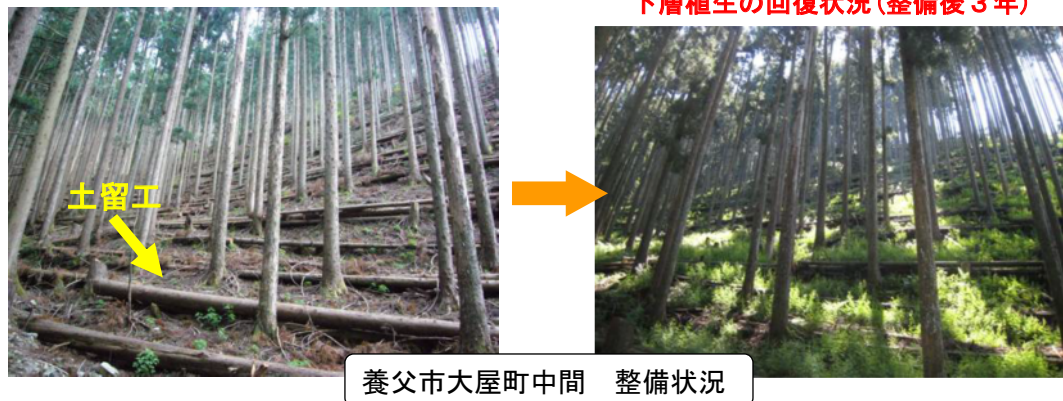
**●間伐木を利用した土留工（どどめこう）の設置（緊急防災林整備）**

**【場所】**

兵庫県養父市大屋町中間

**【環境配慮の内容と方法、工法】**

- ・ 人工林の林床に土留工を設置。整備後3年で林床植生が回復している状況が確認された。



- 間伐木を利用した土留工**
- ・ 伐倒木は、表土の流出を防止するよう等高線方向に設置します。枝払いや玉切りを行い、伐採木を地面に密着させます。
  - ・ 斜面から落下しないよう切り株の山側に伐倒木を設置し固定します。
- なお、安定しない場合は、現地採取の杭を打ち込み伐倒木を固定します。
- シカによって植物の芽生えが食害にあうことも多いため、シカの侵入防止や植栽木の保護対策をあわせた実施が必要です。**

参考資料	1 「災害に強い森づくり事業検証報告書」兵庫県 2010
	2 「災害に強い森づくり」兵庫県 <a href="http://web.pref.hyogo.lg.jp/af15/af15_000000009.html">http://web.pref.hyogo.lg.jp/af15/af15_000000009.html</a>